

青函地域経済活性化フォーラム 資料

北海道新幹線開業と地域経済の動向

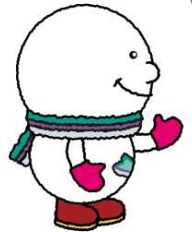
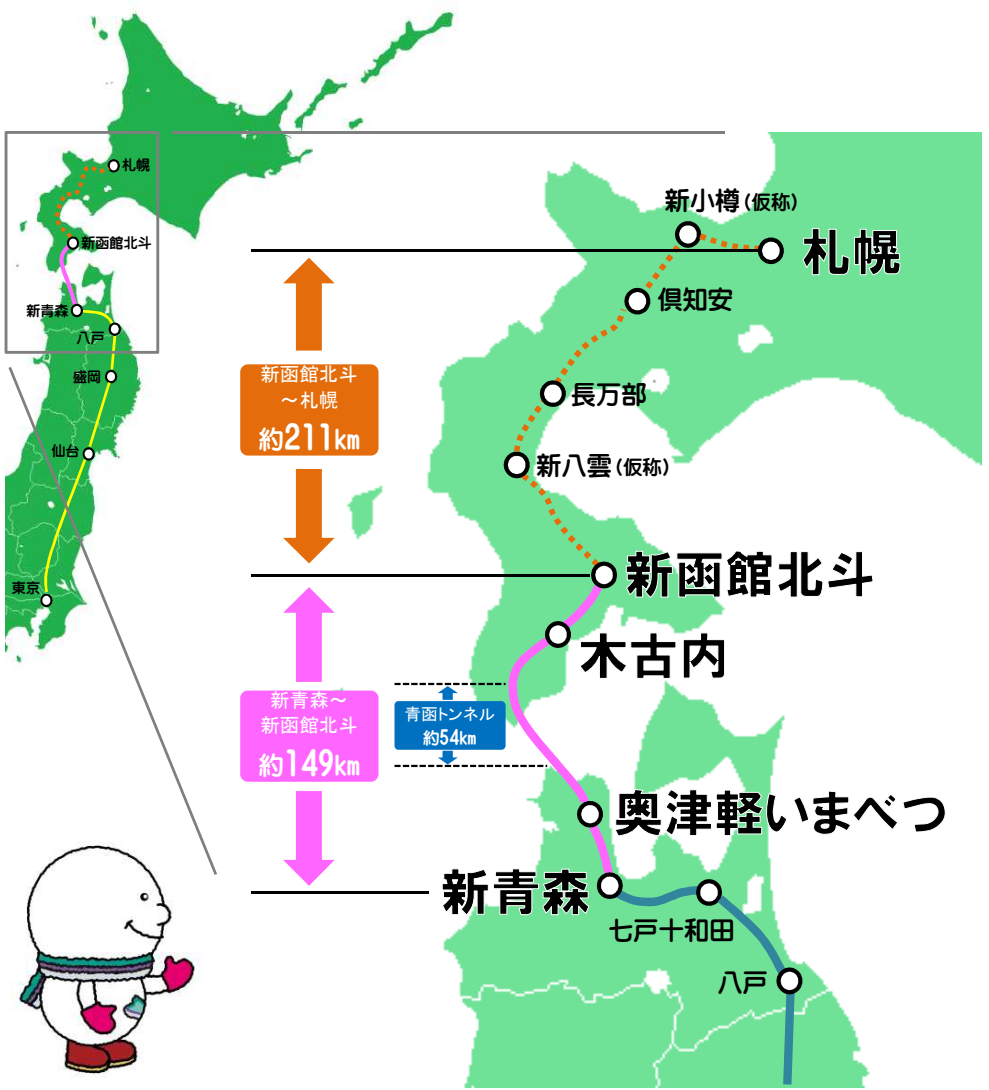
1. 北海道新幹線の概要 P 1
2. 北海道経済を取り巻く環境 P 2
3. 人口の推移と将来推計 P 3
4. 道南観光の特徴 P 4～5
5. 青函連携に関する主な取組み P 6
6. 管内企業における北海道新幹線開業への期待 P 7～9

平成27年11月13日

北海道財務局・函館財務事務所

北海道新幹線は、東北新幹線の新青森から札幌に至る延長約360kmに渡る路線。このうち、新青森から新函館北斗の区間は、2005年(平成17年)に着工され、2016年(平成28年)3月26日の開業が予定されている
 なお、新函館北斗から札幌までの区間は、2012年(平成24年)に認可・着工され、2030年度末(平成42年度末)までの開業に向け、工事が進められている

北海道新幹線の概要



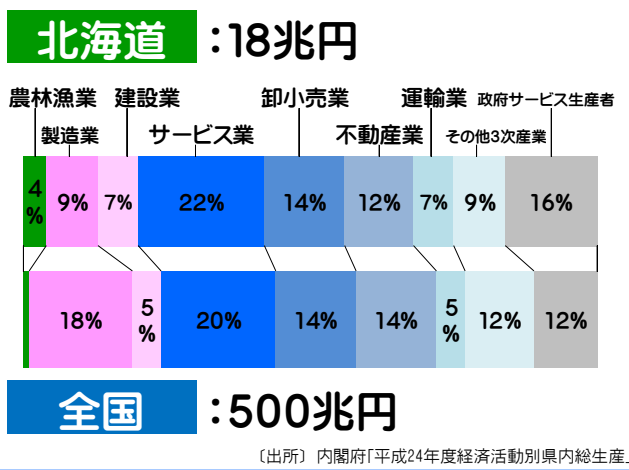
開業までの経緯と経済トピックス

年	出来事	開業から
1973(昭和48)年11月	整備計画決定(北海道新幹線:青森市～札幌市)	42年前
1973(昭和48)年11月	第一次石油ショック	42年前
1978(昭和53)年12月	第二次石油ショック	38年前
1982(昭和57)年6月	東北新幹線 大宮～盛岡間開業	33年前
1985(昭和60)年9月	G5・プラザ合意	31年前
1988(昭和63)年3月	青函連絡船廃止、青函トンネル、津軽海峡線開業	28年前
1988(昭和63)年7月	新千歳空港 開港	27年前
1989(平成元)年4月	消費税導入	26年前
1991(平成3)年2月	バブル崩壊	25年前
1992(平成4)年7月	新千歳空港 ターミナルビル開業	23年前
1997(平成9)年11月	北海道拓殖銀行、北洋銀行への営業譲渡を決定	18年前
2002(平成14)年12月	東北新幹線 盛岡～八戸間開業	13年前
2005(平成17)年5月	北海道新幹線 新青森～新函館(仮称)間着工	10年前
2005(平成17)年7月	知床が世界自然遺産に登録	10年前
2008(平成20)年7月	北海道洞爺湖サミット開催	7年前
2008(平成20)年9月	リーマン・ブラザーズ経営破綻	7年前
2010(平成22)年12月	東北新幹線 八戸～新青森間開業(東北新幹線全線開業)	5年前
2011(平成23)年3月	東日本大震災	5年前
2012(平成24)年6月	北海道新幹線 新函館(仮称)～札幌間 工事实施計画認可	3年前
2016(平成28)年3月26日	北海道新幹線 新青森～新函館北斗間開業予定	

北海道内でも急速な人口減少と少子高齢化が進行、所謂「消滅可能性都市」の割合は全国平均を上回る状況となっている
 また、企業数が減少する中、全国と比較して休廃業・解散件数は高い水準で推移。金融機関の貸出金も伸び悩んでいる

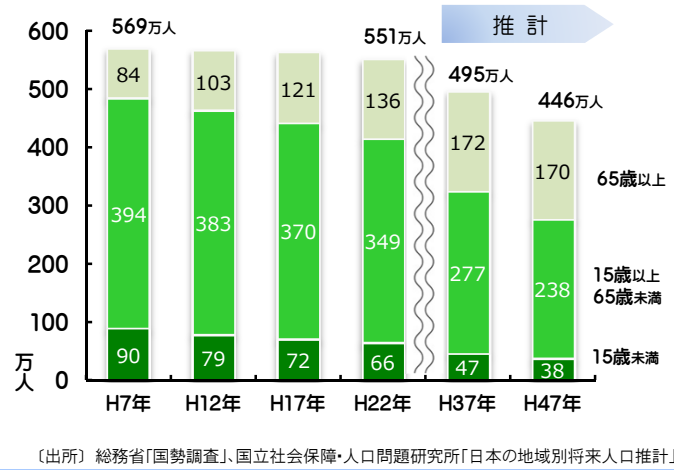
(1) 産業構造 (県内総生産・名目)

◆ 全国と比較し、製造業の割合が低いものの、農林漁業や建設業は高い状況



(2) 人口推移と将来推計

◆ 人口減少・少子高齢化が急速に進行



(3) 20～39歳女性人口の推計

◆ 所謂「消滅可能性都市」の割合は、全国と比較して高い状況

人口移動が収束しない場合の2040年の20～39歳女性人口

	20～39歳の女性人口が50%以上減少			
	うち人口が1万人を切る			
	市区 町村数	割合	市区 町村数	割合
全国 (1,800)	896	50%	523	29%
北海道 (188)	147	78%	116	62%

全国1,800自治体(1,799市区町村+福島県)、道内188市区町村
 (出所) 日本創生会議「全国市区町村別20～39歳女性の将来推計人口」

(4) 企業数の推移

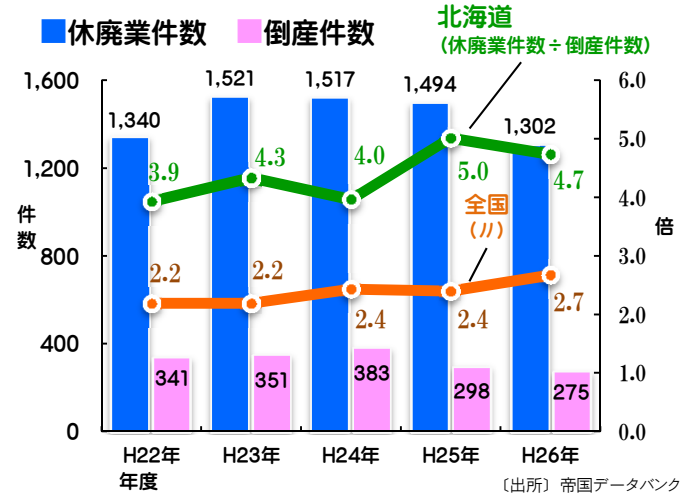
◆ 過去10年間で約2割減少

	企業数 (北海道)		
	うち中小企業	うち大企業	
平成13年	18万6千社	18万5千社	425社
	▲3万2千社 (▲17%)	▲3万2千社 (▲17%)	▲162社 (▲38%)
平成24年	15万4千社	15万4千社	263社

(出所) 中小企業庁「中小企業白書」

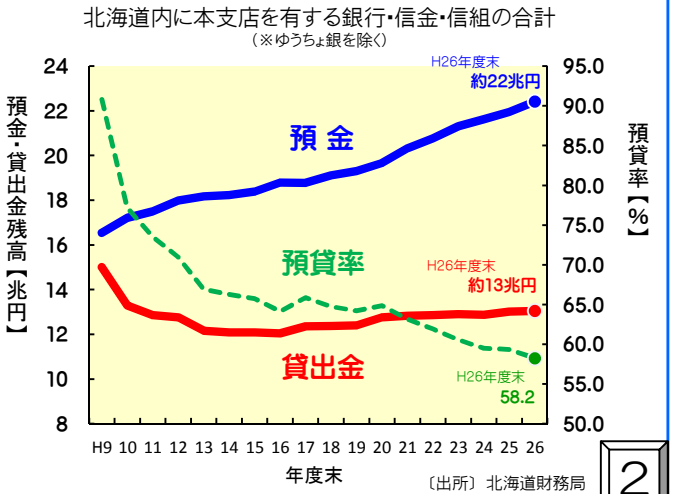
(5) 倒産、休廃業等の推移

◆ 休廃業等件数は倒産件数の約5倍



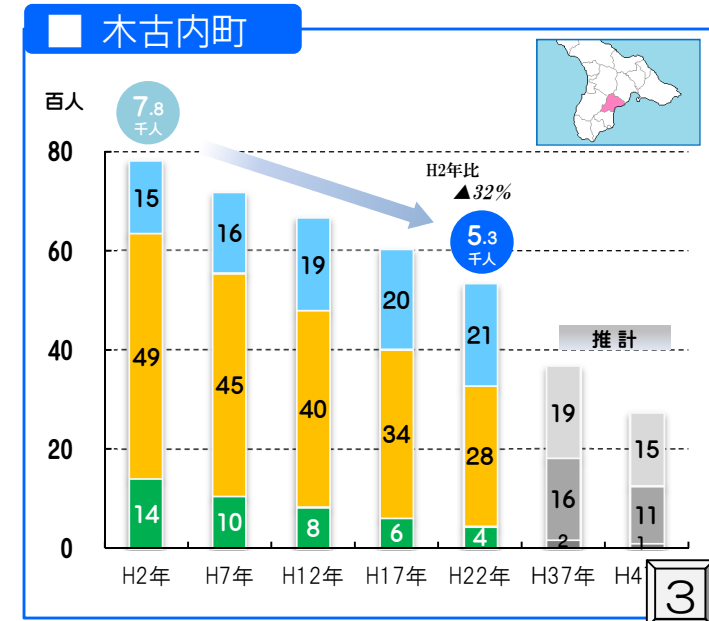
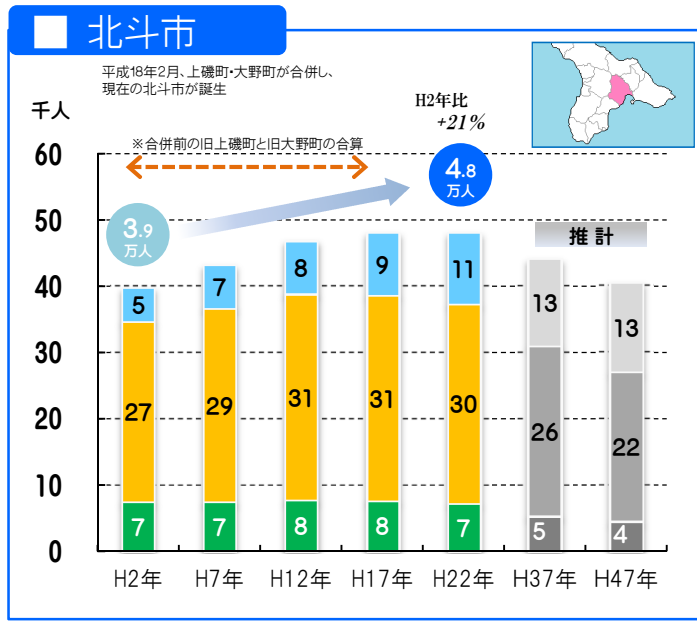
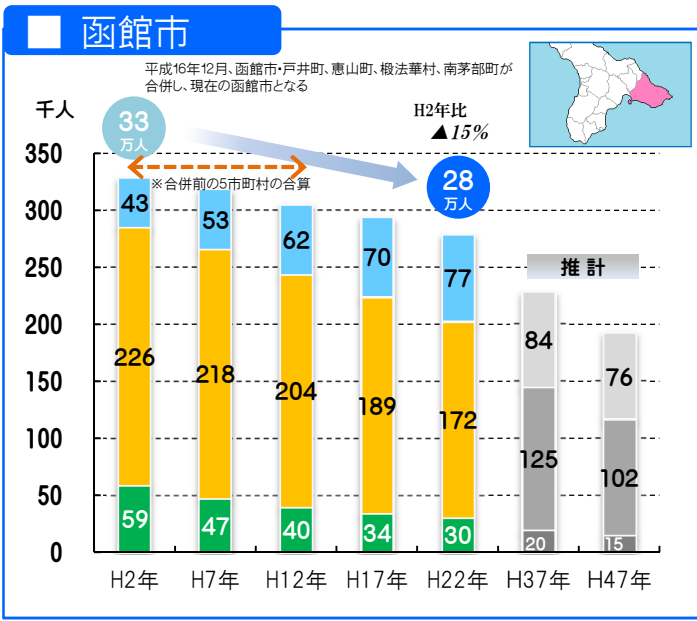
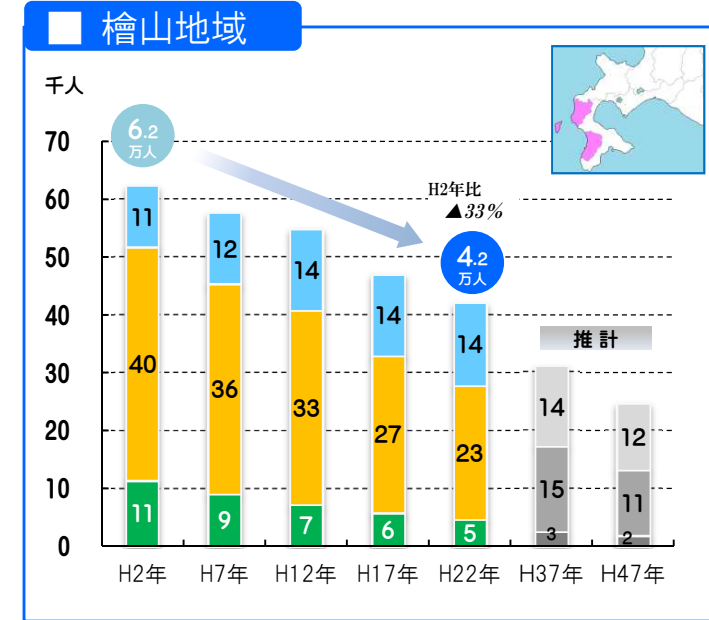
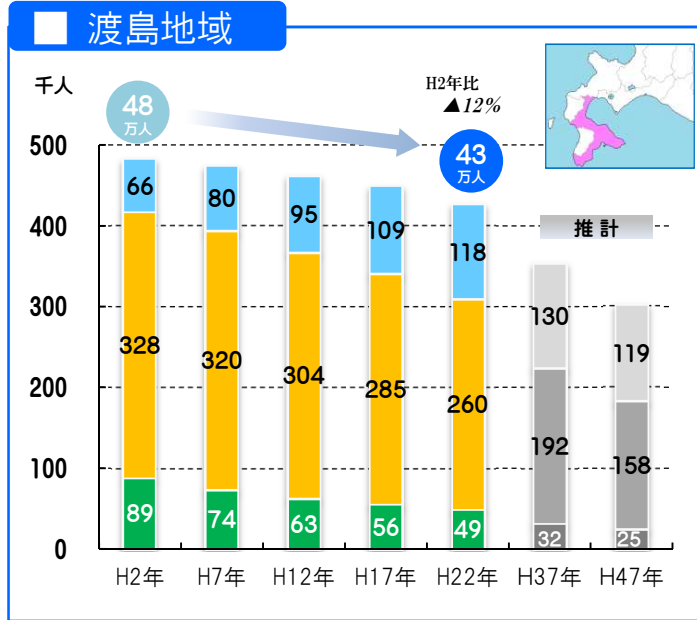
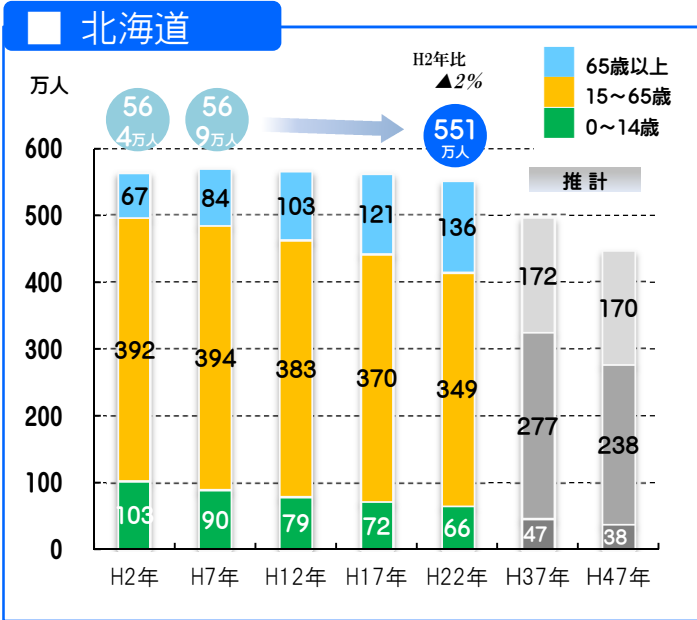
(6) 預貸金の推移

◆ 預金は増加するも貸出金は伸び悩む



北海道新幹線沿線の道南地域においては、人口減少・少子高齢化が全道を上回るペースで進行する自治体が多くみられ、地域における喫緊の課題となっている

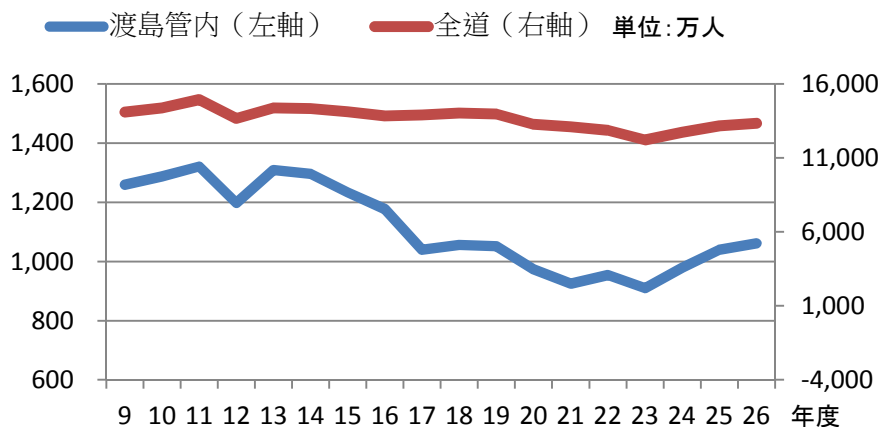
〔出所〕 総務省『国勢調査』、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来人口推計』



- ・渡島管内の観光入込客数はH24年度以降、外国人観光客の下支えもあり増加傾向にある。
- ・外国人観光客は、函館空港の便数の増加や中国人観光客の増加などから近年、大幅に増加している。
- ・道外客と道内客の割合をみると、全道では約30%が道外客であるのに対し、道南圏域では、45%と高い割合となっている。
- ・また、入込総数の宿泊者の占める割合は、道南圏域では30%と他の圏域に比べ高い割合となっている。

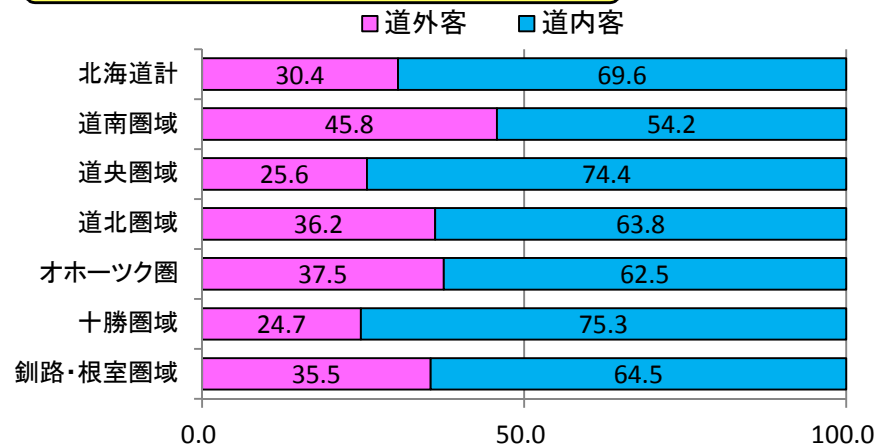
観光入込客数(延べ人数)の推移

減少傾向にあった入込客数は緩やかに増加傾向



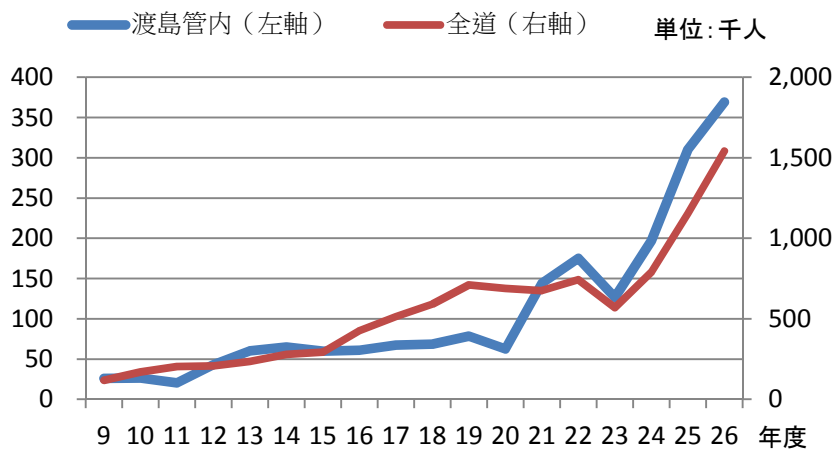
道外客と道内客の割合 (H26年度)

道南圏域は道外客の割合が高い



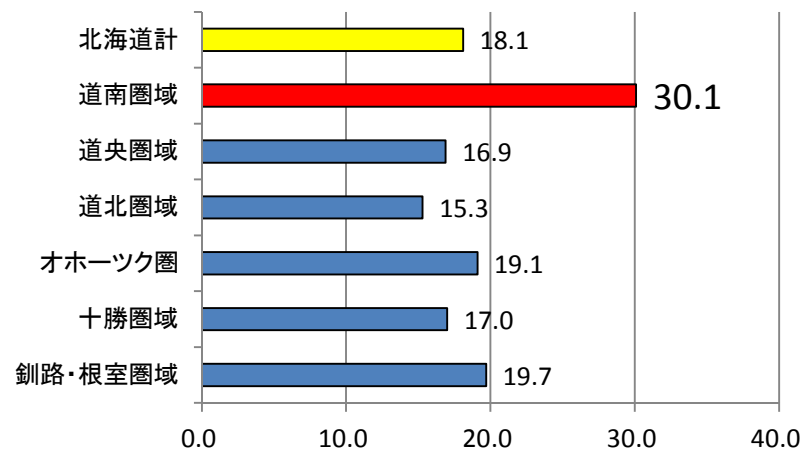
訪日外国人来道者の宿泊者数(渡島管内)と訪日外国人来道者数(実人数)の推移

外国人宿泊者数の動向をみると、渡島管内でも全道と同様に急増している



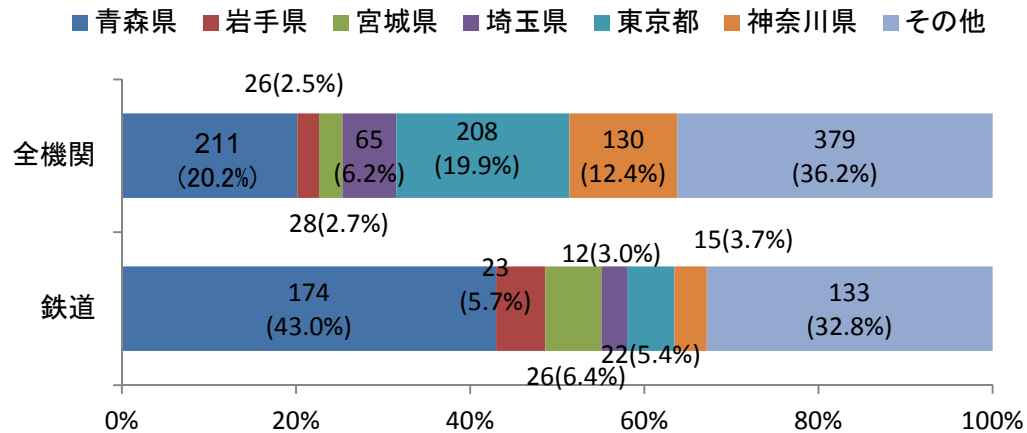
入込総数のうち宿泊者の占める割合 (H26年度)

道南圏域は他の圏域に比べ宿泊者の占める割合が著しく高い



- 道外から道南への来訪者は青森県、東京都からが多い。これを交通機関別にみると、鉄道は青森県、航空機は東京都が最も多くなっている。
- 地域ブランド調査の「市の魅力度ランキング」で、函館市は2年連続の全国1位を獲得した。
- 道内の観光消費額単価をみると外国人宿泊客が最も多く、道外客の1.8倍を消費している。

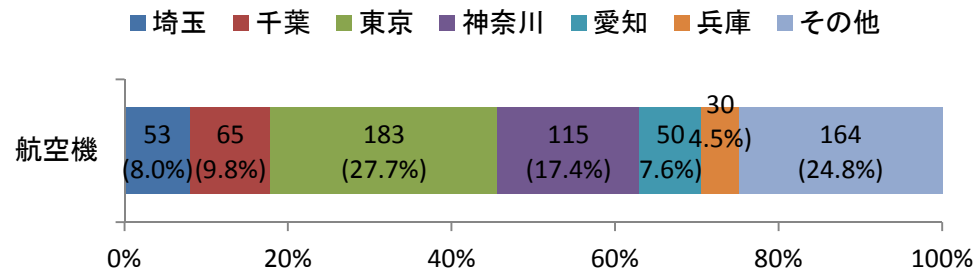
道外から道南への来訪者数(H22年) 単位:千人/年



【出所】国土交通省：第5回全国幹線旅客純流動調査

- 来訪者は青森県からが211千人と最も多く、次いで東京都の208千人となっている。
- しかし、鉄道での来訪者をみると、青森県からの来訪者が174千人と最も多く全体の43%を占めるのに対し、東京都の割合は5.4%とわずかなものとなっている。
- 東京都など関東地方からの来訪者は航空機の利用が多くなっている。

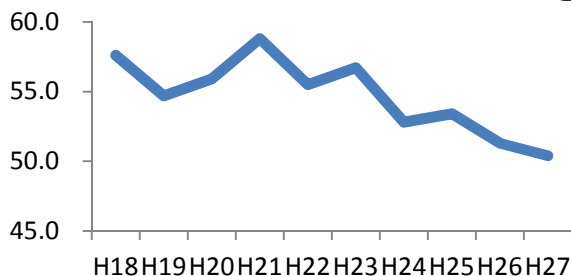
来訪者数が最も多い青森県ほか、沿線都市への働きかけが重要。
現在航空機で来訪している関東地方からの鉄道利用の増加にも期待。



地域ブランド調査 市の魅力度ランキング(函館市)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
順位	3	4	2	1	2	2	3	2	1	1
点数	57.6	54.7	55.9	58.8	55.5	56.7	52.8	53.4	51.3	50.4

点数の推移



2年連続全国1位

- 函館市の魅力度は全国的に常に上位をキープ。2年連続の全国1位。
- しかし点数は低下傾向にある。

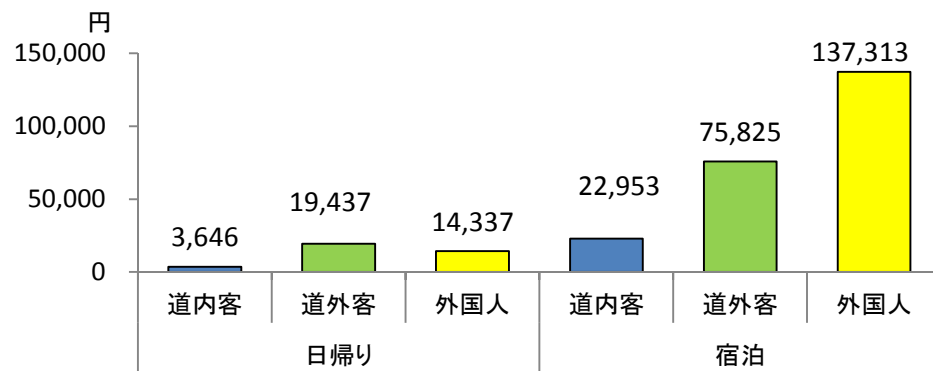


魅力度の更なるアップを

【出所】㈱ブランド総合研究所

観光消費額単価(H26年度)

・経済効果が高い、外国人観光客の伸長は重要であるが、絶対数が多い国内客の地道な誘客への取組みも重要である。



※目的:観光 各四半期の単純平均 【出所】北海道

青函地域においては、津軽海峡を隔てながらも人や物の交流が続けられてきたが、北海道新幹線の開業を視野に、経済、観光、ビジネスなど、あらゆる面での交流や連携が拡大している

青函圏交流・連携推進会議

事務局：北海道、青森県

昭和63年3月の青函トンネル開通を契機に、産学官の各機関により青函インター・ロック交流圏構想推進協議会を設立平成23年に現名称に変更し、新たな会員の参画を呼びかけ、北海道新幹線の開業を視野に、青函圏における交流・連携のプラットフォームとしての役割を担っている



総会及び情報交換会<左>、青函圏フォーラム<右>の模様
(青函圏交流・連携推進会議ホームページより)

青森・函館ツインシティ提携

函館市、青森市



平成元年3月、青函トンネルの開通1周年を機に、青森市と函館市が経済・観光などの各分野における交流を念願して「ツインシティ提携」を締結以降、教育・文化・福祉事業や、スポーツ・レクリエーション事業など、様々な分野で交流事業が展開されている



青森港・函館港(観光庁ホームページより)

北海道・北東北知事サミット

北海道、青森県、岩手県、秋田県

平成9年に北東北3県で始まり、平成13年から北海道も参加して「北海道・北東北知事サミット」として開催4知事が地域の発展を目指して一同に会し、共通の政策課題等について意見交換、連携事業の合意や決議を行っている



第16回北東北・北海道知事サミット(開催地・青森県)の模様(青森県ホームページより)

津軽海峡観光クラスター会議

みちのく銀行、弘前商工会議所、函館商工会議所

平成23年4月、北海道新幹線開業を見据え、観光を核とした地域経済活性化を実現するために設立観光資源に恵まれた函館市と弘前市がクラスターを構成して連携・協力することで、津軽海峡圏の産業振興の牽引役となることを目指す



弘前城
(弘前市ホームページより)



ハリストス正教会
(函館国際観光コンベンション協会ホームページより)

青函圏観光都市会議

函館市、青森市、弘前市、八戸市

平成25年3月、函館、青森、弘前、八戸の4市が、広域連携によって広域観光エリアを形成し、観光の魅力の増進により国際競争力を高め、内外からの観光客の来訪及び滞在の促進を図ることを目的に設立平成28年4月から「青函圏周遊博」を開催する予定



青函圏観光都市会議ホームページより



会員事業所パートナーシップ構築懇談会

函館商工会議所、青森商工会議所

北海道新幹線の開業を見据え、青函圏経済の活力強化に向けた取組みとして、函館、青森の両商工会議所が、会員事業所間のビジネスマッチングを支援事業提案説明会や個別ブースを設けた商談会、立食懇談会を開催し、青函圏でのビジネスチャンス拡大を目指す

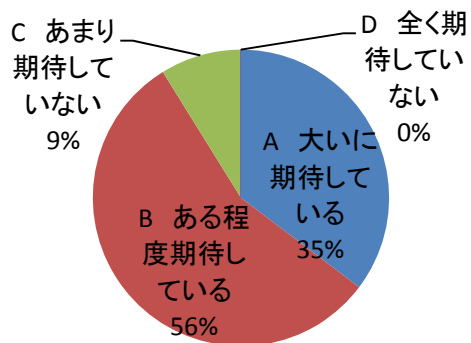




北海道新幹線開業への期待

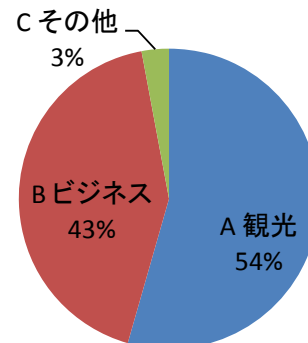
- ◆ 新幹線の開業効果を9割以上が期待しており、期待度は高い
- ◆ 新幹線の利用目的は、観光、ビジネスの順
- ◆ 利用にあたり、「ダイヤの利便性」が最も重視され、次いで「運賃」、「移動時間」の順

開業効果への期待



全体の9割以上が「大いに期待している」及び「ある程度期待している」と回答し、新幹線開業への期待度は高い

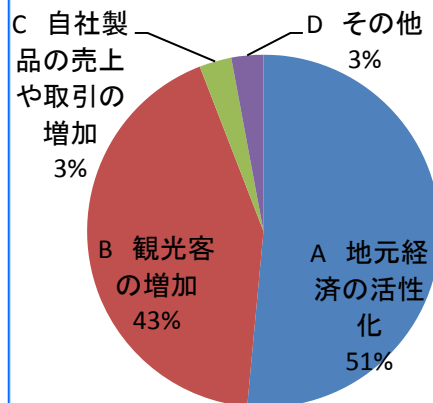
新幹線の利用目的



利用目的は、「観光」が54%、「ビジネス」が43%の順

・出張は東京が多く、移動時間を考慮すると、ビジネスでは飛行機を利用する(製造業)

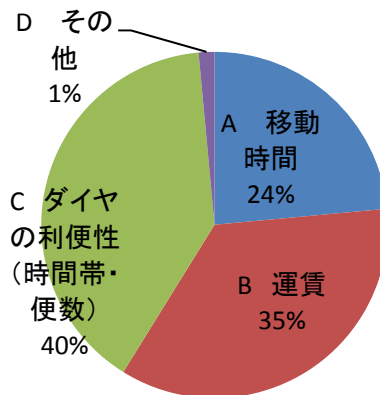
期待する具体的な開業効果



期待する具体的な開業効果は、「地元経済の活性化」が51%、「観光客の増加」が43%の順

- ・地元雇用の場が拡大することを期待(自動車販売業)
- ・国内客が増加することで売上増加につながる(製造業)
- ・ビジネスマンの増加にも期待(大型小売店)
- ・新たなビジネスチャンスが生まれる(IT業)
- ・宿泊施設収容数を懸念(運輸業)

利用にあたって重視すること



利用にあたっては、「ダイヤの利便性」を最重視し、次いで「運賃」、「移動時間」の順

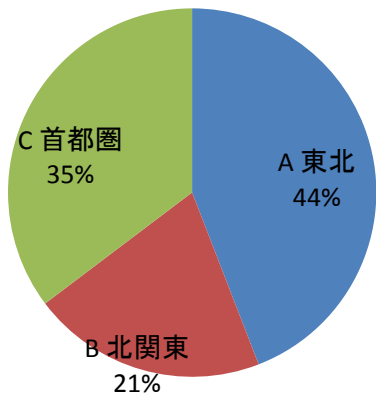
- ・飛行機に比べ、始発・終発の時間に余裕がある(自動車販売業)
- ・運賃が高いと感じるので、割引の内容がどうなるか注目(製造業ほか)
- ・飛行機と比較した、目的地までの総移動時間を重視(運輸業)
- ・木古内駅の停車本数が増えないと地域活性化に繋がっていかない(製造業)



観光

行ってみたい地域

- ◇ 東北地域が44%でトップ
- ◇ 続いて首都圏35%、北関東21%の順



管内から青森周辺で行ってみたい観光地

- ◇「弘前」が最多、続いて「十和田湖」、「奥入瀬」
- ◇「周辺温泉地(浅虫etc)」、「白神山地」、「八甲田山」などが複数回答
- ◇ その他、「津軽半島東海岸」、「みろく横丁」、「雪の回廊(八甲田、十和田、ゴールドライン)」といった回答もあり

地元お勧めの観光地・イベント

訪問してもらいたい道南の観光地は？

◇函館市 ～ 函館山、西部地区、五稜郭公園、香雪園、穴間洞窟、縄文遺跡(函館市縄文文化交流センター)、恵山《登山、温泉》、バル街 etc



穴間洞窟(函館市)



香雪園(函館市)

◇管内 ～ 裏夜景(七飯町 等)、城袋牧場(七飯町)、きじひき高原(北斗市)、しかべ間歇泉公園(鹿部町)、江差姥神大神宮御祭(江差町)、八郎沼(北斗市)、太田神社(せたな町)、矢越クルーズ(知内町)



裏夜景(七飯町 等)



しかべ間歇泉公園(鹿部町)

冬場のオススメ観光地は？

◇クリスマスファンタジー(函館市)、大沼(わかさぎ釣り、氷上カート、スノーモービル)などが複数回答

はこだてクリスマスファンタジー(函館市)

大沼公園(七飯町)

◇寒中みそぎ祭(木古内町)、熱帯植物園(函館市)、道南温泉めぐり、トラピスト修道院並木道《12/24ローマへの道》(北斗市)、駒ヶ岳の雪景色(北斗市ほか)、西部地区の街歩き《冬ならではの美しい景色とカフェでの一休み》(函館市)

熱帯植物園(函館市)

湯の川温泉(函館市)

(画像提供:函館国際観光コンベンション協会、みなみ北海道観光推進協議会、函館市公式観光情報サイトはこぶら ほか)



ビジネス

北海道新幹線開業のチャンス

◇ 企業は観光客の増加と、それに伴う需要増加をチャンスと捉えている

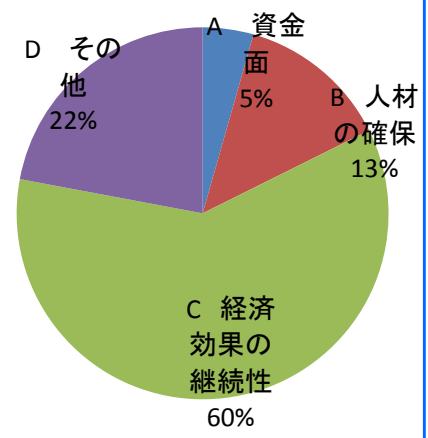
- ◇観光客、来函者の増加(宿泊業ほか)
- ◇土産品の売上増加(食料品製造業)
- ◇観光・宿泊施設の新築・改築(建設業)
- ◇東北地域へのアクセス改善と交流促進(電気工事業)
- ◇全国大会誘致や旅行先としての拡大(宿泊業)



取組への不安

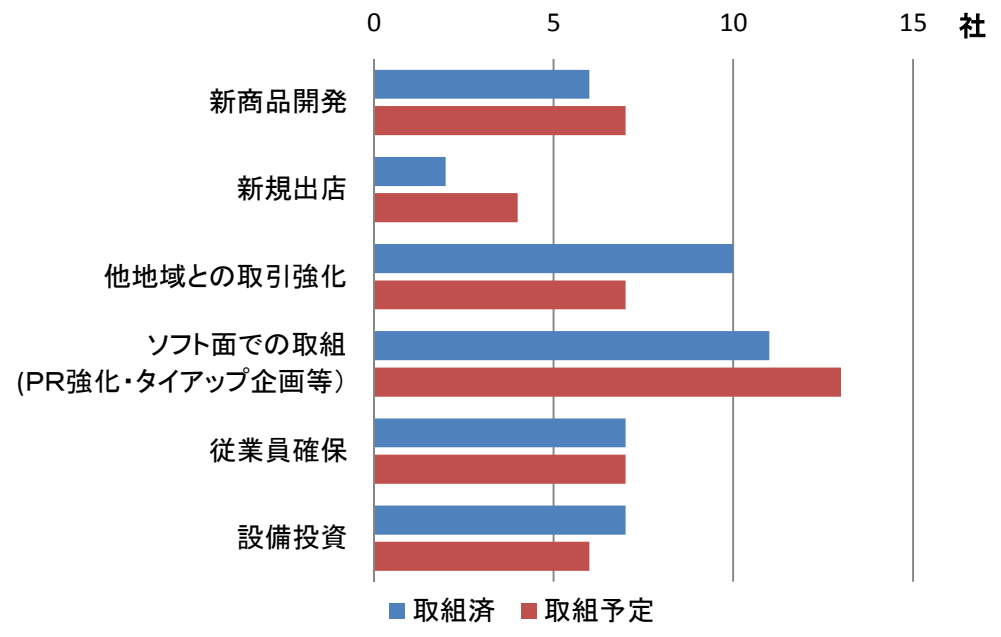
開業効果の継続性を懸念

- ・開業翌年以降の状況がどうか(食料品製造業ほか)
- ・札幌延伸後を懸念(不動産業)
- ・宿泊施設のキャパシティー不足を危惧している(宿泊業)
- ・人材を募集しても、なかなか集まらない(宿泊業)



北海道新幹線開業を契機とした取組

- ◇ 3割の企業が既に何らかの取組を行っている。それら企業を含め5割が今後の取組を予定
- ◇ 取組内容別では、ソフト面が最多、次いで他地域との取引強化



- ・東北や青函関係のフェア、新規物産イベントを実施(大型小売店ほか)
- ・青森市内の食料品製造業と土産品の新規取引(観光業)
- ・新幹線開業にちなんだパッケージや形状の新商品を開発(食料品製造業)
- ・客室の改装、朝食メニューの改善(宿泊業)